

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年11月10日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4675100087
法人名	医療法人慈和会
事業所名	慈和会グループホーム
所在地	伊佐市大口大田96番地 0995-23-0022
自己評価作成日	令和2年11月10日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和2年12月12日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

長年グループホームとして菱刈の地で地域の方々に支えられてきましたが老朽化に伴い新しい場所で2年の月日が過ぎようとしています。母体が近くにあるという安心感と道路沿いより少し離れた場所にあるため、利用者や職員の声が聞こえる空間にあります。窓からは田園風景や四季折々の草花、野菜畑を眺め穏やかな毎日を過ごしてもらえる生活の場です。コロナ禍の中ご家族との面会や外出がままならない中ADLの維持や毎日の過ごし方が単調にならない様に工夫しました。食事は楽しみの一つです。咀嚼、嚥下がうまくできないと誤嚥することが多くなります。そこで口腔体操、発音練習を取り入れ毎日行うことで誤嚥の予防につながり、むせ込まれることが無くなりました。母体はもちろんですが多く場所で自粛やイベントも中止が続いています。以前より合同レクリエーションは行っていましたが身体を動かすゲームや体操を取り入れ職員も一緒に「楽しかった」「良かった」等喜んで参加してもらっています。感染症の流行により先を見通せない状況ですが、気を引きしめまずは職員が「持ち込まないをモットーに」施設内での感染対策もしっかりとり後もう少しで壁は乗り越えられると信じ日々励んでいます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは伊佐市街地から少し離れて国道268号線沿いにある精神科を標榜する病院の敷地内に、認知症治療病棟、就労支援施設、作業所、デイサービス、カフェ等と共に周りを田畑に囲まれた自然豊かな地域に建てられ、利用者は四季を感じながら平穏な毎日を過ごしている。管理者は職員の声に耳を傾けて意見や希望を把握するように努め、明るい雰囲気です話しやすい職場環境作りに努めている。利用者の人格を尊重しながら利用者の有する能力に応じた生活の自立支援を目指し、日々の様子やケアの実践を通して職員間で気づきを共有しながらより良いケアとなるように取り組んでいる。法人の運営理念と共にホームの年度目標を毎年設定し、職員は理念を意識しながら忘れないように各自ネームの裏にメモして携帯し、日々の支援に生かせるように心がけている。重度化や終末期においては、当ホームでは看取りは行わない方針であることを契約時に説明している。利用者が該当する時期を迎えた場合、家族は医療機関への入院や他施設への入所を希望しており、ホームとしては更なる生活の場を選択できるよう支援を行っている。ホームの敷地内に母体病院があることで24時間での対応が可能であり、緊密な連携が図られ、十分な支援体制が整っていることが、利用者・家族・職員の安心感に繋がっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	残された機能を活かし、その人らしい生活が出来るようにを理念に掲げ職員とともに利用者の意向に近づけるように実践している。	日々の様子やケアの実践の結果、気づきを共有して良いケアを目指す法人の理念に基づき、ホームの年度目標を毎年度末に見直して、玄関と各ユニットのホールに掲示し、毎月の職員会議で唱和している。職員は忘れないように各自ネームの裏に理念を書いて入れている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	母体病院を中心に地域の行事、病院主催の行事に地域住民の方招いたり計画されていたが今年はコロナ禍で催し物自体が中止となるが多かった。	法人として地域の自治会に加入している。例年は法人主催の文化祭に地域の方々を招いたり、書道パフォーマンスや出店もあり、近くの保育園児の来訪や大学生のグループ漫談等も受け入れていたが、新型コロナ感染予防ため、今年はすべて実施できていない。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	認知症カフェも中止、延期があり地域貢献へは出来なかった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議もやっと9月より開催することができ、自治会、民生委員、行政担当者、家族、病院職員が参加し、ホームの状況等の報告や身体拘束委員会も同時に開催している。	運営推進会議は定期的開催され、身体拘束適正化委員会も会議の後に併せて開催している。利用者状況、行事・活動報告、ヒヤリハット報告、研修会等について7月までは文書作成していたが、9月から会議を再開し、議事録は家族も閲覧可能となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域密着型サービス会議、医療介護連携会議に参加して状況報告やテーマについて話し合うなど他事業所との関係づくりを行っている。	例年開催されている会議は現在開催できずに研修等に振り替えている。市担当者との電話やメール、また福祉サービスによる金銭管理や市主催の研修会等を通して、日頃から連携を密にするように努め、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に当たる行為についてホーム内で研修を行っている。「身体拘束排除宣言」をホーム入り口に掲示している。	「身体拘束適正化のための指針」を令和2年2月に見直し、身体拘束適正化委員会は運営推進会議と併せて開催している。研修は法人とホームで各々行っており、研修後には職員全員がアンケートと感想を提出し、申し送りノートも活用して意見交換等により認識を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	母体、ホーム内での研修を行い参加している。テレビ、新聞等で話題となれば母体からも文書や指導がある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	母体主催の研修に参加、Eーラーニングを活用して権利擁護について理解出来るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書、重要事項説明書、個人情報取り扱い等について書面で説明する。契約書を2部作成して1部は家族に渡しそれぞれが管理する。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方には日常生活の中で困りごとや意見要望は無いか聞く。家族には面会時等で来所された時意見等は無いか聞く。意見はグループホーム別や職員会で話し、ケアや運営に活かすようにしている。	利用者や家族の意見・要望は、日々のケアや現在ガラス越しとなっている面会時、支払いのための来訪時や電話等で把握するように努めている。遠方の家族に対しては、利用者の生活状況報告書に写真を添えて郵送し、意見や感想をいただき運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会や昼食時に何かないか意見を聞くようにしている。出された意見については検討し、運営に活かせるようにしている。	管理者は2つのユニット間を1日交代で職員や利用者と共に昼食を摂り、職員の声に耳を傾け話しやすい雰囲気づくりに努めている。希望休は月3日取得することができ、職員間での勤務交代も話し合っスムーズに対応できている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回の人事考課を行い、1次考課、2次考課と行っている。個別に面接をして内容に応じては報告、相談する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>資格取得を希望する職員に対し奨学金制度もある。</p> <p>Eーランニングを使っての研修や母体内外研修への参加を促す自己研鑽及び自己の職業能力開発及び向上に積極的に働きかけている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修、講演会事例検討会に参加する機会は本年度は無かった。</p> <p>管理者は地域密着型サービス連絡協議会の開催時は参加している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所希望、入所決定時に本人、家族と面談して施設見学やパンフレットを用いて説明、要望を聞いている。 希望者には、昼食を一緒に摂ってもらい雰囲気を感じてもらおう。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時もだが、入所契約時に説明、要望等を聞く。 面会時に何かないか伺う 担当相談員より家族情報も聞いておく。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	母体病院に入院中であれば施設体験をする場を設け、入所確定時には退院前カンファレンスへ参加する。職員は、入院先へ出向き食事や日常の様子等聞いておく。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にしながら本人の生活歴や体験等を知り本人の理解に努める。 家族や他職種からの情報も参考、共有する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は一人ひとりの生活状況を書き、写真を添え送付する。来所時には日常の様子を報告している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は、今の所ガラス越しとなっているが電話を掛けたり伝言を伝えたりしている。認知デイケア利用時は、地域や近隣の人たちとの交流の場となっている。	利用者の8割以上が敷地内のデイケアに通っており、周囲の人達との交流が図られている。家族との面会、手紙の取り次ぎ、2か月毎の訪問理美容、ホーム内の公衆電話の活用、近隣の散歩等を通して、馴染みの関係が途切れないように働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の中に職員が入り話題を提供して場作りを行う。2ニットでの交流会時は協力して行うゲームを行ったり、誕生日には、カードを作成して全員でパッピーバースディを唄う。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	母体病院への入院時は様子伺いに行けるが他病院への面会は出来ない為電話での様子伺いになっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や、表情、独自の合図やジェスチャーから思いや意向を汲み取るように努めている。意思疎通の困難な利用者は家族からの情報を得ながら検討している。	ほとんどの利用者は思いや希望を伝えることができるが、自分から気持ちを表現しない利用者に対しては職員が積極的に把握するように努めている。本人がどう過ごしたいのかという視点から気持ちを汲み取り、本人の思いに寄り添う支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族より生活歴、生活スタイル、生活環境など聞き、本人、家族の望む暮らしが出来るように生活支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活スタイルなど情報を得て日々の生活の中で寄り添い、残された能力を活かせるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がよりよく暮らせるように受け持ち職員を中心に意見、アイデアを出し合い、本人の望む暮らしに近づけるように介護計画の作成を行っている。月1回の検討会を行うようにして評価し、次の月への課題を見つけている。	利用者や家族の思いや意見を踏まえ、担当職員・医師・訪問看護師等の意見も追加して、個別的な介護計画を作成している。職員間の検討会で毎月評価を行い、3か月毎に見直し、6か月毎に計画を作成している。また、利用者の要望等の追加や状態変化等にあわせて臨機応変に計画を見直し、修正や再作成を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態の変化や認知症状の進行等気づき日々の暮らしの様子などを経過記録に毎日記録して職員間での情報共有して対策など検討し見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態や要望に合わせて通院や外出時の送迎を支援している。 月末にはADLや日々の様子を書き、写真を添え、家族に送ります。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	認知デイケアを利用してご近所だった人や地域の方との交流の場として活用したり、2ユニットでの交流を行い安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は職員が付き添い日々の様子や状態を報告し、医療を受けられるように支援します。必要に応じて家族に報告します。	利用者は全員、入居後は24時間対応してもらえる母体病院をかかりつけ医としており、歯科は訪問診療で対応している。他科受診は基本的に家族の同行としているが、職員が同行する場合は家族に報告し、職員間でも情報を共有して利用者や家族が望む医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常のかかわりや夜勤者からの報告を受け、状態の変化に気づき母体外来へ報告、相談し、早めの対応する。 必要に応じて看護師の訪問もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	指定の病院があり、主治医からの情報提供書、看護サマリーなどを地域連携室を通じて情報交換をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	高齢であり事前確認書を記入してもらいが主治医と今後の方針について面談はされている。 方針が変わる可能性があるのでその都度話し合いの場を持つように心がけている。	看取り介護における方針に基づき、契約時に確約書・同意書と共に説明し、同意を得ている。ホームとしては看取りは行わない方針であり、そのような事案発生時は医療機関に入院したり、他施設へ移っていくのが現状となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体研修以外にもホーム内研修でも急変時対応が出来るように職員間でも話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の昼夜間想定の大災訓練を行い、安全に避難出来るようにしている。</p> <p>母体病院にも連絡し協力を得ている。</p>	<p>法人全体での大災訓練として、年2回の夜間想定の大災訓練のうち1回は消防署立ち会いのもとで実施している。避難経路の確認や消火器の点検等も行い、自動通報装置は階下の認知症治療病棟に繋がっており、職員への連絡はメールで行われる。備蓄は殆どが母体病院に保管されているが、カップラーメン、缶詰、水、ラジオ、懐中電灯、防空頭巾等をホームで準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活を安心、安全に過ごしてもらえるように支援している。一人ひとりに気を配り、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけ、対応をしている。	利用者の表情や仕草に十分配慮しながら、思いを尊重して尊厳を損ねないように努めている。法人研修では接遇について学び、職員会議でも話題にして排泄誘導や入浴介助などプライバシーへの配慮にも心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを傾聴し、意思の確認を行い尊重した支援が出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせ、その人らしい生活ができ、あんぜんに暮らせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	外出時には好みの衣類を選んでもらい、身だしなみを整えて出かける。白髪染を希望される時は美容室に出かけ、好みの髪型や毛染めを受けられるように支援する。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養科より届けられた食事は、その人に合わせた食事形態で温かいもの、冷たいもの等メニューに応じ提供される。季節の行事、誕生日月など工夫され、カードも添えられる。	病院の厨房で外部業者が委託を受けて調理される食事が利用者の状態に合わせて提供され、お出かけランチとしてカレーや牛丼もある。利用者はテーブル拭きを行い、毎月15日は誕生会用の食事が出され、利用者にとって食事が楽しみとなるように工夫されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事形態で管理栄養士よりアドバイスをもらい考慮された食事が提供される。毎食時、10時、15時と1日1200mlは摂取出来るようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き、義歯洗浄を行い出来ない部分は支援している。夕食後はポリデント洗浄し、清潔を保っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	昼間は、すべての人がトイレでの排泄が出来るように自力で排泄できる方は見守り支援が必要な方は声掛け、誘導によって排泄習慣を支援している。	日中はトイレでの排泄ができるように排泄チェック表を活用してトイレ誘導を行っている。夜間はポータブルトイレを使用する利用者もおり、日中は視野に入らない場所に置いてカバーをかけている。居室をはじめホーム内でオムツ類は目に付かないように片付けられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の少ない人には好みの飲み物や乳酸飲料を提供し、排便を促すように取り組んでいる。排便時の便の状態をプリストルスケールを活用し、記録している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	個々の状態に合わせた対応、時間を変更している。入浴剤、菖蒲葉、ゆず等を浮かべ、ほっとされる時間を提供できるようにしている。	週2回、1対1の個浴で利用者の状態や希望に合わせて行われている。入浴剤・ゆず・菖蒲等を用いて、シャンプーや保湿剤は利用者の物を用いている。入浴をためらう利用者はなく、失禁時の対応にも配慮するなど入浴を楽しめる支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状態、状況に応じて休息したり眠れるよう支援、日中はデイケアを利用したり、活動を取り入れ夜間安眠できる環境づくりを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容の変化がないか確認、新しい薬が追加になった場合は職員全員が理解できるように申し送る。薬の作用の理解や薬服用により状態変化があった場合は受診する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じた軽作業やテーブル拭きを手伝ってもらう。合同レクリエーションは、全員参加してゲーム、カラオケなど楽しめる。レクリエーション時に準備されるおやつも楽しみにされる		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の中外出の機会は少なかったが美容室、むつみ苑棟周りの散歩は支援している。	例年はユニット毎に法人の所有する車で季節に合わせて花見等のために外出したり、買い物にも出かけていたが、現在はほとんどできていない。利用者は近くの桜や敷地内の花壇を眺めたり、デイケアへの外出、散歩などを通して気分転換を図り、意欲や自立の向上に繋がるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>普段の金銭管理は職員が行っているが、電話代として小銭を渡し家族の方との連絡に使われる。日用品や嗜好品など職員が代行して購入している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>自ら電話をしたり、電話を希望する利用者に代わり職員がかけ、間を取りもつ。手紙を書かれた場合は家族に渡したり、出したりしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節に応じた花や壁に手作りのディスプレイを利用者と一緒に作成して季節を感じてもらっている。湿度や温度などの管理を行い、快適に過ごしていただけるように環境づくりを行っている。</p>	<p>病棟の名残がある壁にディスプレイして目隠ししたり、リビングや廊下には利用者の作品や季節の花が飾ってある。天窓があるため廊下は明るく、オゾン脱臭・加湿器等により空調管理が成されており、換気も時々実施している。リビングには季節に合わせたディスプレイ、カレンダー、ソファ、テレビ等が設置され、快適に過ごせるように工夫されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下には作り付けのベンチ、ホールや自室にはソファを置く等して家族、面会者、利用者同士がゆっくりと過ごせるようまた、コミュニケーションを図っていけるような環境づくりを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人が必要な物などは家族、本人と相談しながら自室の目に触れやすい所に配置している。</p>	<p>居室入口には利用者が記され、緊急時避難誘導用の色花が飾り付けてある。ベッド・たんす・キャビネット・エアコンが備えられ、空調管理は一括して行われている。利用者は馴染みの物を自由に持ち込み、写真・色紙・ぬいぐるみなど好みの物を配置して、落ち着いて憩える暮らしとなるよう支援している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すりの設置、廊下には物を置かない等している。自室やトイレが分かるように名前やディスプレイなどで工夫している。</p>	/	/

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない